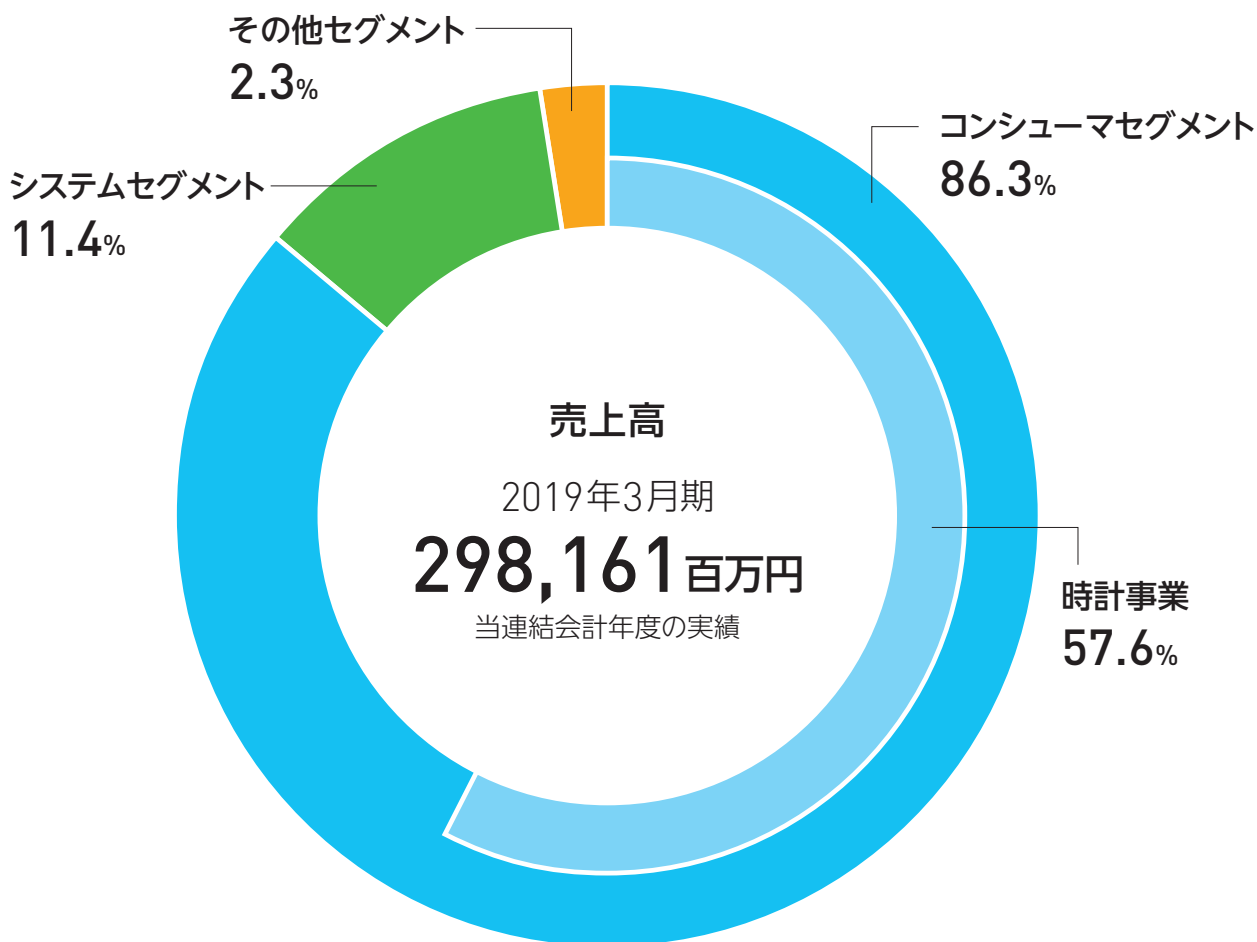
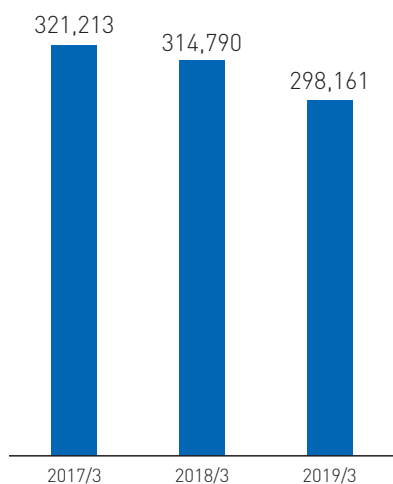


▶ 事業概況

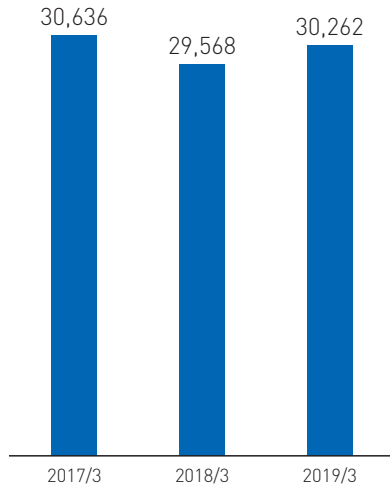
2018年3月期におけるコンパクトカメラ事業の撤退および中国や欧州での景気減速、新興国通貨安等の外部環境変化の影響により、売上高は減少しましたが、構造改革による収益体質の改善を図りました。その結果、当期の売上高は、298,161百万円、営業利益は30,262百万円となり、通期業績は減収増益となりました。また、経常利益は29,894百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は22,135百万円、1株当たり当期純利益(EPS)は89円86銭と改善しました。



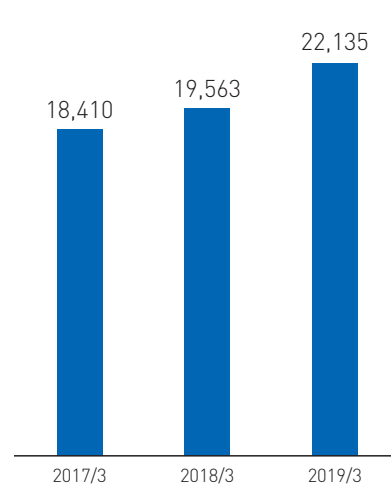
売上高
(百万円)



営業利益
(百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益
(百万円)



コンシューマ

主要製品

ウォッチ、クロック、電子辞書、電卓、電子文具、電子楽器 等

2019年3月期の業績

当セグメントの売上高は、コンパクトカメラ事業の撤退により257,354百万円(前期比4.3%減)となりましたが、構造改革の効果により営業利益は38,232百万円(前期比9.1%増)となりました。

● 時計事業

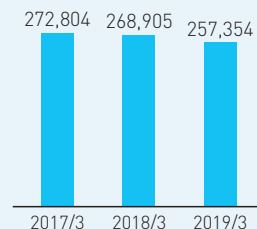
「G-SHOCK」が初号機5000シリーズ初のフルメタル仕様モデル『GMW B5000』などのメタルを中心に好調に推移(G-SHOCKの年間販売数:950万個)しました。景気減速等外部環境の変化が厳しい中でも、引き続き高収益性を維持しました。

● 教育事業

電卓は関数電卓が安定した学生市場により引き続き好調に推移(関数電卓の年間販売数:2,360万台)し、同様に学生向けが堅調である電子辞書とともに収益性を確保しました。さらに電子試験/電子教科書市場に対応したWebアプリケーション事業を開始、教育事業の新たな柱としてのスタートを切りました。また、楽器については2月に発売したデジタルピアノ「Privia(プリヴィア)」『PX-S1000』が市場から高い評価を得ています。

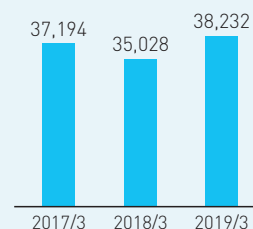
売上高

(百万円)



セグメント利益

(百万円)



システム

主要製品

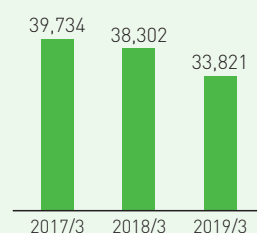
ハンディターミナル、電子レジスター、経営支援システム、データプロジェクター 等

2019年3月期の業績

2016年度、採算性の低かったプリンター事業等から撤退したことにより、2018年3月期は収益力を大幅に改善し営業利益の黒字化を図りました。しかしながら、2019年3月期はフランスでの法令レジスター特需先送りの影響もあり、当セグメントの売上高は、33,821百万円(前期比11.7%減)、営業利益は910百万円の赤字(前期営業利益583百万円)となりました。

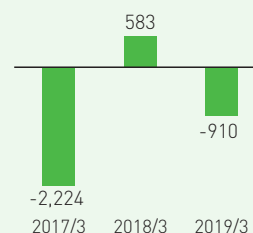
売上高

(百万円)



セグメント利益

(百万円)



その他

主要製品

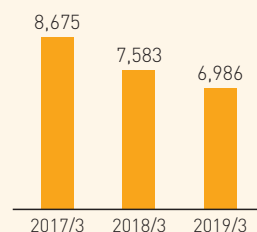
成形部品、金型 等

2019年3月期の業績

当セグメントは、成型部品、金型などグループ会社の独自事業等であり、その売上高は、6,986百万円(前期比7.9%減)、営業利益は336百万円(前期比41.1%減)となりました。

売上高

(百万円)



セグメント利益

(百万円)

